



学校だより

7月号



石川小学校 学校教育目標
育てます。「石川魂」

令和2年6月30日
横浜市立石川小学校
校長 寺園 淳

子どもたちのために いま

副校長 宮崎 里子

1年生の蒔いた朝顔は双葉に続き本葉も出始めました。教室にランドセルを置いてから、毎朝楽しそうに水遣りをしています。学校の段階的再開を経て、子どもたちの生活リズムも徐々に安定してきたように感じる今日この頃です。

さて、この度のコロナウィルスによる感染症の脅威は、私たちの生活を一変させてしまいました。「新しい生活様式」を受け、様々な感染症対策を施しながらの毎日は、これまでの来し方では考えられない日常です。子どもたちは手洗い・うがいが以前にも増して習慣となりました。「3つの密」を避ける意識をもち、学校生活を組み立てることに少しずつ慣れてきている様子です。文部科学省から示された「手洗いの6つのタイミング」は

手洗いの6つのタイミング

- 外から教室に入るとき
- 咳やくしゃみ、鼻をかんだとき
- 給食（昼食）の前後
- 掃除の後
- トイレの後
- 共有のものを触ったとき



とされています。小児は新型コロナへの感受性は低いとされていますが、保護者の皆様のご心配はいかばかりかと拝察いたします。教職員は変わらず教室やトイレ、手すり等共有部分の消毒を丁寧に行い、学校生活の安全を守ることを心掛けていきます。

プロ野球もようやく開幕し、ホームランを打った選手がベンチに戻る時に「エア・ハイタッチ」をしている様子を見ると、人と人との距離感は従前に比べつくづく様変わりしたと思います。

そのような中、先日朝の光景で、6年生の児童が学校に足が向かない1年生の手を引いて登校している様子を目にしました。その姿から「必要な時に必要な支援を」と当たり前のことを教えられた気持ちがしました。

もちろん、ソーシャルディスタンスに配慮をして、学校生活の指導にあたることは大切なことです。しかし、これだけの生活等のルーティンの変化が、子どもたちに大きなストレスをもたらしていることは否めません。これまで教職員は「子どもたちのケアを最優先に」を合言葉に支援を心掛けてきました。まだまだ先の見えない現状ですが、子どもたちの笑顔の裏側を注意深くのぞき込む気持ちで、いつでも手を差し延べることができる感度を高く保ち、温かく育んでいきたいと強く思います。保護者・地域の皆様のお力をお借りして進んでまいります。